



小宮収穫余禄桜苗木に花芽つく

ふくしま再生短信 2015 10/13 (第6号)



【カット写真（左上から時計回り）】作業中の金一さん、稲穂の生育状況を確認する金一さん、マキバノハナヅノ桜の植樹会（2014/4/13）、桜苗木について花芽、4株の稲刈り、稲束の結わえ方を手解きする金一さん【背景写真】<はせがけ>を終えた飯館村小宮の久保金一農園田圃風景・中央矢印は東大大学院農学生命科学研究科国際情報農学研究室教授溝口勝さんのフィールドモニタリングシステム（撮影日は桜の植樹会を除き2015/10/11）

金一さん

大久保金一農園ならびにマキバノハナヅノ主人。十歳でハナヅノづくりを始めて六十余年、昨年は4/13・4/20両日にわたり桜の植樹会を主宰。再生の会が協力し、大学生ら100余名が参加して100本以上の苗木を植樹、2017年に第1回花見を予定。

2015年10月11日午前11時、飯館村小宮地区の大久保金一農園を訪ねた。当初は記者としてこの日小宮の作付実験田圃の稲刈りに参加する予定だった。飯館村に到着してみると日曜日は雨天との天気予報のため急遽土曜日10日に稲刈りは「終える」という。しかし失望するのは早過ぎた。なんと4株がこの日のために残されていたのだ。金一さんはトラクターで資材運搬の作業中であつた。4株の存在に不安を抱きつつ稲刈りの準備に入っていた。記者を含めて2名で4株の稲刈り、超贅沢というほかは、そしてくはせがけまで金一さんの指導のもとで貫徹できた。めでたく収穫を終えた直後にでっかいニュースが飛び込んできた。1本の桜の苗木に花芽がついたのだ。来春の開花が楽しみだ。（撮影・文責：若林一平）